

2024年8月29日(木)

敏感肌ブランド「ディセンシア」
10代後半～20代の37%がエイジングケアを実践！？2008年と比較して、27pt上昇。
敏感肌ケアが、エイジングケアの近道？

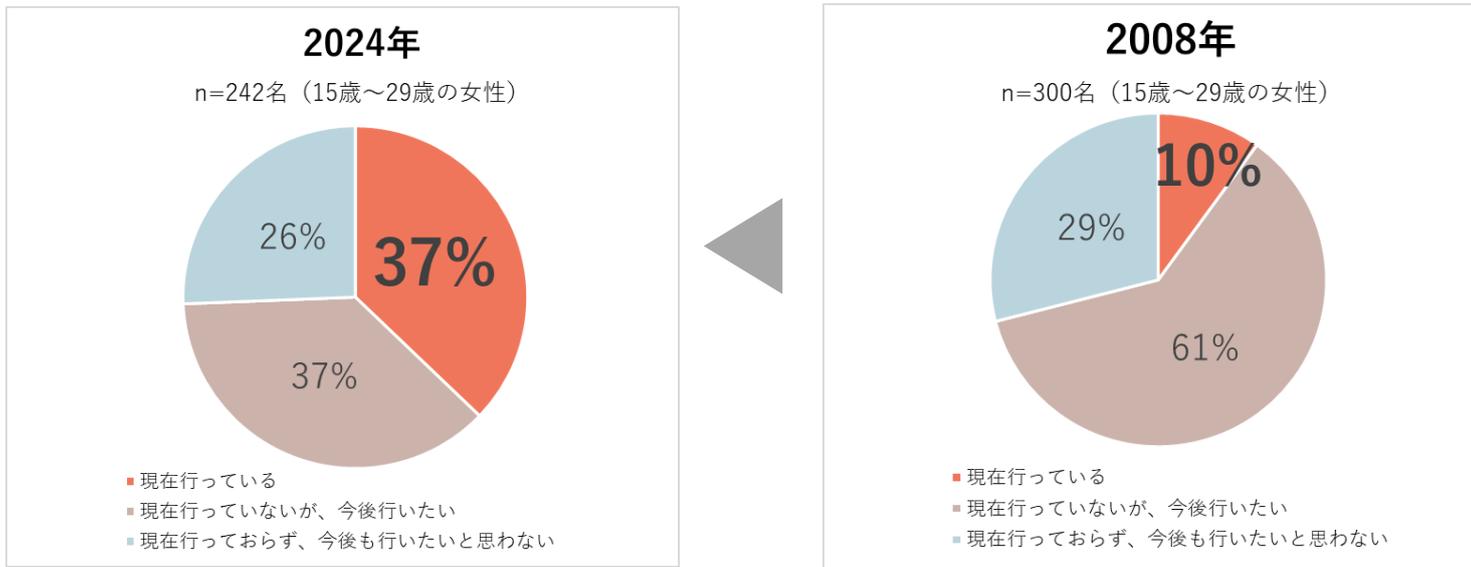
ポーラ・オルビスグループの株式会社 DECENCIA（東京都品川区、代表取締役：山口裕絵）は、15歳～64歳の女性834名を対象に、エイジングケアに関する意識調査を実施しました。

■若年層のエイジングケアへの関心が高まっている

調査① 10代後半～20代で、エイジングケア目的のスキンケアを、「現在実践している」割合が37%。

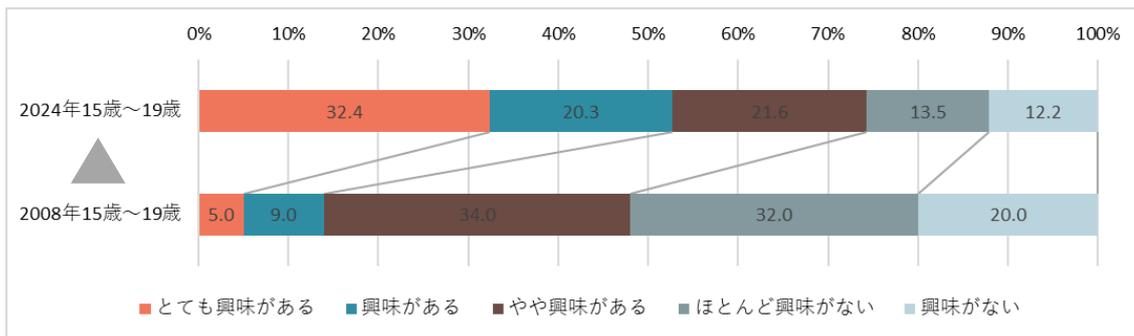
2008年のポーラ文化研究所の類似調査（以下、「2008年調査」。）と比較して、+27pt上昇していることが判明。

▼現在（最近1か月）、エイジングケア（アンチエイジング）目的のスキンケアの実行状況



調査② 特に10代後半の「とても興味がある」「興味がある」層が上昇。2008年調査から+38.7pt上昇。

▼顔の肌のエイジングケア・アンチエイジングへの興味



また、エイジングケア・アンチエイジングに対する考え方にも変化が見られました。10代後半～20代に、「若返らせる」「現状維持」「老化のスピードを遅らせる」のうち、一番近い考え方を何う設問※調査④で、「若返らせる」と回答したのが、2008年調査では、38.3%だったのに対し、2024年には28.7%に減少。その分、「現状維持」「老化のスピードを遅らせる」と考える人が増えています。SNSやインターネットを通じて美容情報を入手しやすくなったり、憧れの方や、ロールモデルとしたい方の取り組みを手軽に知れるようになったことで、若年層における「エイジングケア」の自分ゴト化が進んでいるのかもしれません。

調査①②※調査④ともに

2024年：ディセンシア調べ 調査方法：インターネット調査 | 対象者：15歳～29歳の女性242名 | 調査期間：2024年8月6日～8月8日

2008年：ポーラ文化研究所調べ「女性の化粧行動・意識に関する実態調査～スキンケア篇2008～」より（15歳～29歳の女性、計300名に関する結果を抜粋） 調査①「アンチエイジング目的のスキンケアの実行状況と今後意向」 調査②「顔の肌のアンチエイジングへの興味」 調査③「顔の肌のアンチエイジングについて」

調査③ 10代後半～20代がエイジングケアしたい理由の上位は、「みだしなみ」「年齢相応 or 若く見せたい」。

▼エイジングケア（アンチエイジング）をしたいと思った理由

年齢	全体	みだしなみとして、肌を整えておきたいから	年齢相応より若く見られる肌でいたいから	年齢相応の肌でいたいから	将来 シワ、シミ、たるみ等がないまたは少ない肌でいたいから	自分自身の満足に繋がるから	将来、健康的に美しくありたいから	将来、コンプレックスを少なくしたいから	現在 シワ、シミ、たるみ等具体的な悩みがあるから	将来、周りからの印象を良くしたいから	その他
全体	580	188	234	150	226	173	182	129	322	102	6
10代後半～20代合計		56	46	43	41	39	38	36	30	26	2
15歳～19歳	40	19	14	13	13	18	14	11	8	9	1
20歳～24歳	47	22	17	13	13	15	16	13	8	8	1
25歳～29歳	47	15	15	17	15	6	8	12	14	9	0
30歳～34歳	56	16	20	14	15	18	19	10	26	7	2
35歳～39歳	61	16	31	21	23	17	20	18	29	14	0
40歳～44歳	67	19	32	14	29	18	19	17	46	11	0
45歳～49歳	64	22	26	21	30	20	24	12	40	13	0
50歳～54歳	67	26	29	15	31	26	25	15	51	10	1
55歳～59歳	62	14	26	10	23	15	18	12	45	10	0
60歳～64歳	69	19	24	12	34	20	19	9	55	11	1

濃オレンジ＝各年齢層における1位の理由、薄オレンジ＝各年齢層における2位の理由

2024年：ディセンシア調べ 調査方法：インターネット調査 | 対象者：15歳～64歳の女性834名のうち、現在（最近1か月）、エイジングケア（アンチエイジング）目的のスキンケアを、「行っていて、今後も行いたい」「行っていないが、今後行いたいと思っている」いずれか回答した方580名 | 調査期間：2024年8月6日～8月8日

■若年層と敏感症状 ファーストエイジングケアは、敏感ケアをはじめるところから？

▼10代後半～20代のうち、「かさつき/乾燥しやすさ」「赤み」「ひりつき」など”敏感肌症状”を76%が実感*。



現代では、酷暑をはじめとする気候変動、PMS期の肌不調、食事制限によるダイエット、美容医療や化粧品の成分重視トレンド、など敏感肌状態に陥りやすい要因が溢れています。特に、新陳代謝が良く、肌のターンオーバーが速いことが知られている若年層の肌では、角層細胞が未成熟のまま育ち、肌が敏感状態に傾きやすい＝肌のバリア機能が低下しやすい場合もあると考えられます。エイジングケアにおいても、「肌の調子の良い状態が続いている」ことが基本です。敏感肌は誰にでも起こりうる肌状態、であることを理解し、肌に合ったケアを心掛けましょう。

ディセンシア調べ 調査方法：インターネット調査 | 対象者：15歳～29歳の女性242名 | 調査期間：2024年8月6日～8月8日

*ディセンシアが定義する敏感肌症状（「赤み」「ひりつき」「季節、体調の変化等で肌が不安定になりやすい」など）をいずれか1つ以上、実感する方。

■独自技術ヴァイタサイクルヴェール®搭載のクリームを中心とした、「つつむ」シリーズ。2024年9月5日発売。



発売から17年、ご愛顧いただいてきた高敏感*ケアの「つつむシリーズ」全7品がリステージ。あえて処方はずえ、より多くの方に使っていただきやすいように、パッケージをアップデートします。

しっとりまるやかなローションや、独自のバリア膜が外部刺激から肌をしっかり守るクリームが特徴。乾燥から肌を守って、うるおいに満ちた、しっとりやわらかい肌に導きます。

*高敏感…肌荒れが長期間続く、あるいは、繰り返すことが多い肌のこと

プレス関係者さまからのお問い合わせ先
株式会社 DECENCIA
PR マネージャー：みどのや 御殿谷りえ
PR 担当：八周舞 西川美紀 渡邊眞梨奈 藤澤ひかり
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10
Mail : decencia_pr@decencia.co.jp

お客さまからのお問い合わせ先
ディセンシアお客さまセンター
TEL : 0120-714-115
(月～金 10:00～19:00 / 土 10:00～17:00)
www.decencia.co.jp